

邑楽郡青少推だより 第2号

令和2年6月1日発行



緊急事態宣言が解除され、日常生活が戻りつつあります。しかしながら、青少推の活動については、さまざまな制限のもと、手探りの状態が続いています。

予定していた事業を中止せざるを得ないこともあるかと思いますが、子どもたちのために何ができるかを、皆さんと考えていきたいと思っています。

第2号では、東部教育事務所 茂木次長が「コロナに負けない人づくり・地域づくり」と題して寄稿いたしましたので、ご一読いただければ幸いです。

『コロナに負けない人づくり・地域づくり』

東部教育事務所

次長 茂木 良文

皆さま、いつも大変お世話になっております。邑楽郡青少年育成推進員連絡協議会事務局を仰せつかっております東部教育事務所の次長（生涯学習係長）茂木 良文と申します。日頃から青少年の健全育成に向けて各地域での熱心な取組、誠にありがとうございます。

さて、ご承知の通り令和2年度の幕開けは例年とは全く異なり、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって、日本国民のみならず全世界の人々が未だ不安な生活を強いられています。終息への明確な糸口が見つからないまま、今後も感染拡大防止に繋がる新たな生活様式を国民の各自が継続していくことが大きな課題となっています。

ウイルス感染拡大の影響で、これまで当たり前のように繰り返されてきた幸せな日常が、多くの制限を強いられる非日常へと変わってしまいました。そして、この現状に対して当たりどころのない嫌悪感と、たくさん大切な物（命・時間・仕事・権利・学習・笑顔……）を奪われた喪失感は、私たちにとって、これまで経験したことのない大きな試練となっています。一日も早く、そして誰もが健康に穏やかな日常を取り戻せるよう願わずにられません。

そんな中ではありましたが、昨年度末に邑楽郡青少推の3年間（平成29年度～令和元年度）の“あしあと”をまとめた、「**育成推進のあゆみ**」を関係の皆さまのご協力のもと、同所属の富岡小百合青少年育成コーディネーターの編集により、無事発行することができました。本当にありがとうございました。

編集作業中、巻頭の近藤千秋会長さんの「あいさつ」文を拝読し、素晴らしい内容に強く感銘を受けました。その文章の結びには、「大人たちが思いやりと豊かな心を

持ち、若い世代と真正面から向き合っていかなければ、世の中は変わらないと思いま
す。」「その先頭に立って大人たちを変え、子どもたちを変え、そして未来を変えてい
こうではありませんか。」と近藤会長さんは、力強く訴えています。「これぞ青少推の
役割!! そして、魂（たましい）だっ!!」と、わたしは深く感動いたしました。推
進員の皆様の熱い思い、そして願いが伝わってくる「**育成推進のあゆみ**」今一度、お
手に取っていただければ幸いです。

昨今のコロナウイルス感染拡大一波の収束に伴い、緊急事態宣言は解除されたもの
の、第2波襲来の恐怖と不安を抱えた中では、通常の生活を取り戻すのにまだ時間か
かかるかもしれません。しかし、これまで学校が休校となり「ステイホーム」を合言
葉に学習も遊びも大好きな運動も制限され、家の中でじっと我慢してきた地域の子ど
もたちも、学校再開で笑顔を取り戻しつつあります。

先行き不透明な現状ではありますが、未来を担う子どもたちのために、地域の大人
が今、何が出来るのか、そして、今後、社会をどう変えていけるのか、大いに試され
ているような気がします。やっとの思いで再開された学校の今後の運営方策や、社会
教育施設等の今後の利活用の仕方等々、身近な教育環境の整備についてもわたしたち
大人が知恵を出し合い、手本を示して行くことが重要なのではないのでしょうか。それ
ぞれの家庭のみならず、今こそ地域の教育力を結集して、このコロナウイルスに立ち
向かい、打ち勝たなければなりません。

推進員の皆様方には、このコロナ時代の新たな教育環境のもと、青少年の健全育成
に今後もお力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。東部教育事務所とい
たしましても全力でお手伝いをさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願い
いたします。

*** 青少推シンボルマークについて**

記章（バッジ）の図案になっている「青少年育成
運動のシンボルマーク」は、真ん中の赤い丸が若者
の情熱を、両脇のグリーンが、若々しい麦の穂をあ
らわしています。

寒い冬に芽生え、踏みつけられながらも、太陽に
向かって伸びる姿に青少年のイメージを重ねています。



発行/ 邑楽郡青少年育成推進員連絡協議会

編集・印刷/ 東部教育事務所生涯学習係

〒373-0033 太田市西本町60-27

TEL:0276-31-7151 / FAX:0276-31-7101